

2010年度 自己評価書

学校法人藤学園 旭川藤幼稚園

1 本年度の重点目標

昨年度の振りかえりと本年度の充実として、建学の精神でキリストの教えによる世界観・人間観をもって、正義と愛を基調とした人格の基礎形成を保護者にもわかるように伝え充実してゆく。

2 本年度の経営方針

学校評価実施から3年目になり、学校評価委員の組織化も図る。幼稚園をとりまく環境において保育の質の向上をはかりつつ、キリストの教えによる愛の実践を方向づけ保護者の理解を深める。旭川市における教育の現場を浸透してゆく。

3 評価方法

評価方法は、次のとおり4段階とする。

- | | |
|-----------------------|----------------|
| A 十分達成されている。 | B 達成されている。 |
| C 取り組まれているが、成果が十分でない。 | D 取り組むが不十分である。 |

4 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
教育目標	1 園の創立理念・建学の精神にあるキリスト教理念を理解している	A	藤幼稚園の根本理念を実践しているが、更に深めてゆきたい。
	2 教育目標と教育方針を理解している。	A	一人ひとりの子どもを、具体的に方向づけたい。
	3 教育方針について園長と共に定期的に話し合い、理解を深めている。	A	話し合いは昨年より深められたが、更に向上したい。
教育課程	4 幼稚園教育要領を理解している。	A	「生きる力と安全性」について、更に深めたい。
	5 教育目標・教育方針が教育課程に反映されている。	A	これまで以上に活動した年であったが、より一層活発化したい。
	6 職員全員の協力により教育課程を反省・評価し、必要に応じて改善している。	A	改善について、より以上に積極性をはかりたい。
指導計画	7 園の教育課程の具体的実施計画として、長期・短期の指導計画の関連性をふまえて作成している。	B	常に協議してきたが、内容の充実をはかりたい。
	8 幼児の興味・関心、生活の流れ等、実態に応じて変更できるような計画になっている。	A	非常に活発に取り組めたが、個人のリストを作成し充実させたい。
	9 日々の保育の記録をとり、自ら検討すると共に教員間で話し合い、次の計画にいかしている。	A	創造性と、想像性をもっと取り入れる必要がある。
教育環境	10 幼児にとってふさわしく安定した教育ができる環境になっている。	A	特に、旭川の冬を運転手の協力によって、たくましく遊べたので続けたい。
	11 施設・設備を整え、幼児の様々な活動がおこなえるようにしている。	A	畑、土山をつくり、活動的にあそべた。継続してゆきたい。
	12 施設・設備の安全を確保する努力をしている。	A	総合警備会社が入園募集日にボランティアで、安全確保作業をした。
	13 施設・設備の改善や計画について積極的に意見を述べている。	A	遊びの状況から、取り組みを見直し続けている。

教育内容	14 神の子として世界の平和を大切にすることを育てている。	A	保護者の協力もあり、浸透していった。
	15 生活や遊びの中で、頑張ったり、我慢したり等の豊かな心の体験が得られるようにしている。	A	ていねい・やさしい中にも、しっかり指導されている。
	16 生活や遊びの中でルールを守り、楽しく活動できるようにしている。	A	ルールを守ることの大切さが伝わっている。
	17 身近な事象（自然的事象・社会的事象）や動植物との触れ合い、親しむとともに、生命の大切さや畏敬の念を感じとれるように努めている。	A	動植物を育て、世話をしながら具体的に取り入れられている。
教師の役割	18 幼児一人ひとりの心のより所としての役割を果たしている。	A	昨年に引き続き園児数が増えても、しっかり実践を続ける。
	19 保護者に信頼されるように努めている。	A	会話や、説明に欠けていたので改善したい。
	20 教師であることに誇りを持ち、生きがいを感じている。	A	全員がよく努力していた。
資質の向上	21 キリストの教えを学びそれを幼児に伝える指導法を研究している。	B	祈りはよくされているが、研修を深める必要がある。
	22 教師の専門性を高めるため自己研修等に意欲的に取り組んでいる。	A	さまざまに工夫しているが、継続したい。
	23 保護者の子育てへの不安、育児へのニーズを理解しようと努めている。	A	理解をしながら、もっともっと相談にのったり、わかるように関わりを深める必要がある。
地域連携	24 カトリック教会との連携を計りキリスト教文化や伝統に触れる機会を大切にしている。	A	祈りの集いに参加してゆくことを方向づけたい。
	25 家庭や地域との連携を十分に図りながら保育を展開するようにしている。	A	地域とのかかわりを更に親しく深めてゆく努力を必要とする。
	26 地域に伝えられている文化や伝統に触れる機会を大切にしている。	A	冬まつり・自衛隊の音楽祭にも参加したい。
	27 他の教育機関と連携や交流をし、保育にいかしている。	A	小学校とのふれあい交流に参加し、入学のひきつぎをした。
組織運営	28 園・学園の組織について知り、自分もその組織の一員としての自覚をもって行動している。	A	職員会議などで、自覚を深め続けてゆく。
	29 職員会議等の運営・役割に応じて積極的に参加している。	A	充実してきたが、更に役割を実践してゆくことが必要である。
	30 教職員間の連絡・調整が適切におこなわれている。	A	更に深めてゆくことを進める。
保護者との意見反映	31 保護者からの意見を聞き、それを園長に伝え、適切に反映している。	A	昨年に引き続き、習慣性になっていることを改善してゆく。
	32 幼児や保護者の個人情報の取り扱いについて、適切な配慮がされている。	A	配慮されているが、個人情報について知識を深めることも必要と思われる。
	33 事故、問題等が起きた場合の園長への報告・保護者への説明、対応を適切におこなっている。	A	小さなことにも保護者への説明へ取り組みを深めたい。

5 総合的な評価結果

総合評価	理由
A	<p>昨年度からの継続で、園児数増加に伴い、保護者の考え方の違いなどの対応に苦慮を重ねながら、よい方向へ努力した2010年度であった。畑、土の山をつくり、作物の収穫、高い山からの活動など活発な体験を保育にとり入れられた年であった。PTA活動として、父母の会役員の勘大なる協力で旭川藤女子高等学校体育館で、「卒園・進級のコンサート」を初めて実践できた。</p> <p>次年度は、保育方針・保育内容を具体的に保護者が理解できるように改善することが必要である。方法としては、保護者が職員に安心して尋ね、職員も笑顔で相談にのり、コミュニケーションを深めることへの向上をはかりたい。</p>